

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣 良次

2017. 12
No.292

2017年一年間感謝

一年間本当にありがとうございました。2017年のテーマは「選択と集中」でした。お客様で皆さんの努力で、マスタープランを上回る結果が出てきております。この調子で後半ラストスパートをかけたいと思っております。

本社、米津、西尾東、和泉の各工場、平湖、鳥取、オアシス、ツールワン、サービス、ホールディングス、このイナテックグループ全体で頑張っていたと思います。お互い、「いい所」を真似て、グループ全体の力を付けていきます。

さて、近い将来EV(電気自動車)の時代は必ずやってきます。その時代になってもイナテックグループが生き残っていくために、舵をきらな

ければなりません。その方策のヒントになる記事を日経新聞で見つけました。

中国平湖の共同出資でお世話になっている岡谷鋼機の岡谷社長が、200年以上続く老舗企業でつくる国際団体「エノキアン協会」の会長に就任されます。そこで岡谷社長は「伝統を守るには伝統を崩すこと」とおっしゃっていました。記事には「自動運転分析でベンチャー企業と組んだりするなど新事業への種まきを怠らない」とも書かれていました。

やはりこの辺りに大切なヒントがあるのではないかと考えております。皆さんのアイデアをたくさん出してください。

「素直な心に戻る」(山岡鉄舟修養訓より)

鉄舟先生は「剣術の妙處(みょうじょ)を知らんとせば、元の初心に還るべし。初心は何の心もなし」と書いている。これは一般的な言葉でいえば「初心忘るべからず」ということだろう。そして「初心に還る」とは「何の心もなし」だから「素直な心になる」ということだといえる。

修行は何のためにするのかと聞かれるが、なんのためにするのでもない。そもそも「なんのため」という疑問を取り払うためにしているのである。

「少も疑の念をいれず修行してみよ。必ず妙處みょうじょを發明するの時節じせつあらん」とあるように、疑いを捨てて素直にならなければ何事も身につかないのだ。

ふつと素直な心に戻ることによつて、初めて転じることができ、そして転じてみると自分の目が外に向いてきて「こういうこともできる」「こんな工夫もできる」と気づいていく。

我々の仕事にも通じるのではないだろうか。まさにこれは、何度も申し上げている「素直な人が伸びる」です。

「お先にどうぞ」

「お先にどうぞ」と言える心を持つ。イナテックの企業理念の中の「磨かれた心」です。仕事を通して自分自身を磨き、「利他」の心を養

う実践です。「利他の心」とは、「誰々のために」ということなのです。

最近弊社で起きた事件があります。町内の方が車で交差点を左折しようとしたところ、前方よりイナテック社員が右折を強行し、町内の方が危険な思いをされました。「イナテックの社員教育はどうなっているんだ」とお叱りのメールをいただきました。もちろん左折が優先です。

イナテックの社員はなぜもう少し待てなかったのでしょうか。「お先にどうぞ」と利他の気持ちがあつたのでしょうか。企業理念講話の中で「ゆとりを持って出社してください」といつもお話ししています。時間に余裕があれば、心に余裕があれば、「お先にどうぞ」ができたはずです。

しかし、常に神様のように何でもできないのが人間の性です。だから、人間学を学ぶことによつて「人間としての正しい考え方で相互啓発する」イナテックにしなければならぬということです。たつた一人の社員の行動で、イナテックがつぶれる恐れがあります。イナテックの社員同士、「お先にどうぞ」という「ゆずり合い精神」を大切にして、気持ちのいい会社にしましよ

かかとを踏んだ安全靴発見！

これもイナテック企業理念の話です。

「かかとの踏まれた安全靴」は、一回か二回踏み歩いたものではなく、「踏み履き倒された」安全靴でした。その社員は職場をいろいろ変わつて応援してくれた社員です。

もちろんこのような安全靴の履き方は問題ですが、その社員に対し周りの人が「見て見ぬふり」をしたということが重要な問題なのです。私が毎回企業理念で説明していることです。

「見て見ぬふりをする仲良しクラブ」のイナテックはつぶれます。「仲良く喧嘩するイナテック」にして、相互啓発型のイナテックにしないと生き残れない時代なのです。

五四

讀易曉窓、丹砂研松間之露。談經午案、寶磬宣竹下之風。

夜明けの窓の下で易経を読みながら、松の葉末のしずくを受けて、朱ずみをする。また、昼の机に向つて経文の教理を説きながら、宝磬を打って澄んだ音色を竹林をわたる風に響かせる。（朱ずみをするのは句読を施すため、宝磬を打つのは澄んだ音色に心を澄ませるためであらう）。

上司のみでなく、社員同士“心を鬼にして”注意し合ひましよう。

「たかが安全靴、されど安全靴」なのです。

今年一年ありがとうございました。最後にいろいろな事件が起きましたが、だんだん良い方向に向かつております。

この反省を踏まえ、来たる2018年が素晴らしい年になりますよう祈念し、お礼とさせていただきます。

感謝！

